xDSL(ADSL/SDSL など）回線をご使用の方へ
～ WLAR-L11-L/BLR-TX4 ～

PY00-26123-DM11-02

このたびは、弊社製品をお買い求め頂き、誠にありがとうございます。
本製品のファームウェアのバージョンアップにより、PPPoE を使った xDSL 回線でインターネット接続ができる様になりました。設定手順は、下記「■ PPPoE を使った xDSL 回線をご使用の方へ」を参照してください。また、PPPoE の設定のために、設定項目が追加されています（下記「■設定項目の追加」を参照)。マニュアルをお読みになる前に、必ず本紙をお読みください。

■設定項目の追加

本製品の設定画面に、PPPoE 接続のための設定項目が追加されました。

該当箇所①	［詳細設定］－［基本設定］の「WAN 側 IP アドレス」欄
追加項目	「PPPoE クライアント機能を使用する」
該当箇所②	［詳細設定］画面
追加項目	「PPPoE 設定」メニュー

※追加項目の詳細は、下記「■PPPoEを使ったxDSL回線をご使用の方へ」を参照してください。

■ PPPoE を使った xDSL 回線をご使用の方へ

xDSL回線に本製品を接続してインターネット接続をする場合は、PPPoE接続の設定が必要な場合があります。PPPoE接続の設定が必要かどうかは、契約しているプロバイダに確認してください。
PPPoE接続の設定をおこなう場合は、パソコンに通常おこなうPPPoE接続の設定を本製品に設定しますので、お使いのパソコン上にPPPoE接続の設定をおこなう必要はありません。

PPPoE（Point to Point Protocol over Ethernet）とは

電話回線での PPP 接続と同様の通信を、Ethernet 上でおこなうための方式です。
この方式は、xDSL 回線で多く使われています。

《設定手順》

PPPoE接続の設定は、以下の手順でおこなってください。
※WLAR-L11-Lでの手順を元にして、説明します。

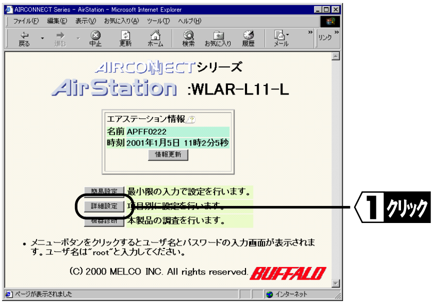
①別冊『インターネットスタートガイド』の各OSの章のStep1～Step4を参照して、本製品の設定をおこなってください。

②別冊『インターネットスタートガイド』を参照して、本製品の設定画面を表示してください。

WLAR-L11-Lの場合：各OSの章の「Step4　AirStationにインターネット接続のための設定をする」の手順1～13(Windows2000/NT4.0の場合は、手順1～9)

BLR-TX4の場合　　：各OSの章の「Step4　BroadStationにインターネット接続のための設定をする」の手順1～7

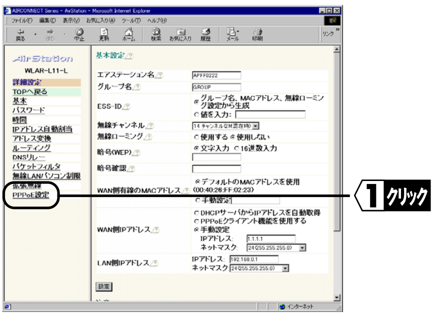
③



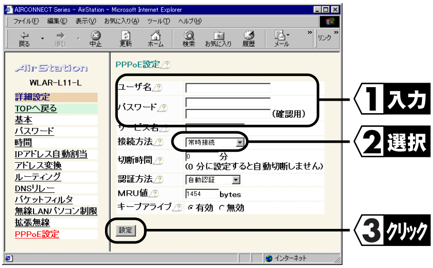
［詳細設定］をクリックします。

「ネットワークパスワードの入力画面」が表示されたら、以下の通り入力して［OK］をクリックします。
ユーザー名：「root」を入力します。
パスワード：空欄のままにします。

④



［PPPoE設定］をクリックします。

⑤ 

プロバイダから指定された「ユーザ名」と「パスワード」を入力した後、「接続方法」を選択して、[設定] をクリックします。

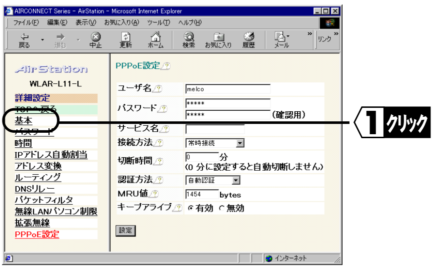
この設定画面（「PPPoE設定」画面）内の各設定項目の詳細につきましては、本紙「《PPPoE設定画面の各項目について》」（P.6）を参照してください。

・パスワードは確認のため、（確認用）の入力欄にも同じパスワードを入力してください。

・フレッツ ADSL をご利用のお客様は、「ユーザ名」欄に「プロバイダから指定されたユーザ名@プロバイダの識別名」と入力する必要があります。

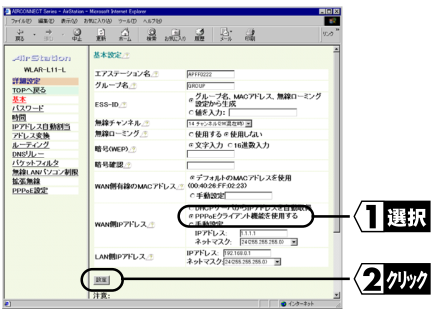
例：プロバイダから指定されたユーザ名が「melco」で@Niftyの場合
melco@nifty.com
詳しくはご利用のプロバイダにお問い合わせ下さい。

⑥「設定を完了しました。」と表示されますので、「戻る」をクリックします。

⑦ 

「基本」をクリックします。

基本設定画面が表示されます。

⑧ 

WAN側IPアドレスの取得方法を「PPPoEクライアント機能を使用する」に設定して、[設定]をクリックします。

設定が保存され、本製品が再起動します。

⑨「設定を完了しました」と表示されますので、WEBブラウザを閉じます。

⑩別冊『インターネットスタートガイド』の各OSの章のStep5以降を参照して、パソコンの設定をおこなってください。

以上でPPPoE接続の設定は完了です。

《インターネットに接続できないときは》

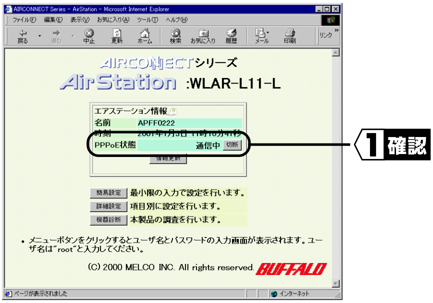
インターネットに接続できないときは、別冊「インターネットスタートガイド」の「第5章　困ったときは」を参照して、設定を確認してください。また、以下の手順でPPPoE接続の設定がされているか確認してください。

①再度、別冊『インターネットスタートガイド』を参照して、本製品の設定画面を表示してください。

WLAR-L11-Lの場合：各OSの章の「Step4　AirStationにインターネット接続のための設定をする」の手順1～13(Windows2000/NT4.0の場合は、手順1～9)

BLR-TX4の場合　：各OSの章の「Step4　BroadStationにインターネット接続のための設定をする」の手順1～7

②



「PPPoE状態」欄の表示を確認します。

詳細な接続情報は、「機器診断」の「本体情報」で確認してください。

「通信中」

・正常にPPPoEで通信できています。

「PPPoEサーバ・ケーブルモデムが見つかりません」

・AirStationとケーブルモデムが正常に10BASE-Tケーブルで接続されているか、確認して下さい（AirStationの前面パネルにあるWANランプが点灯しているか確認してください）。ケーブルモデムとAirStationはパソコンとケーブルモデムを繋ぐものと同じ10BASE-Tケーブルをご利用ください。

・今までパソコンとケーブルモデムを直接接続してインターネット接続していた場合、ケーブルモデム内にパソコンとの接続状態が保持されていて、AirStationを接続しても通信できない可能性があります。しばらく時間を置いてから、再度、接続を行なってください。
（フレッツADSLでは、NTT西日本で３０分程度、NTT東日本で１０分程度、接続状態が保持されて接続できなくなることがあります。）

「CHAP 認証に失敗しました」／「PAP 認証に失敗しました」

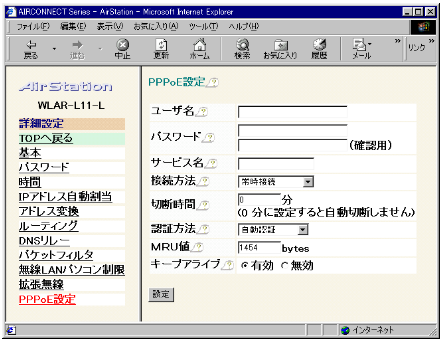
・ユーザ名、パスワードが正しく設定できているか確認してください。

・フレッツADSLをご利用の場合は、プロバイダへの接続契約が「フレッツADSL接続」に切り替わっているか、プロバイダに確認して下さい。プロバイダによっては、ADSL に対応していても、特別な契約が必要な場合があります。ご確認下さい。

「サーバの応答が無くなりました」

・一旦、接続後、プロバイダのリモートアクセスサーバから強制切断されました。しばらく、時間を置いてから、再度接続を行なってみてください。また、プロバイダにサーバの状態を確認してみてください。

《PPPoE 設定画面の各項目について》



ユーザ名　：プロバイダに接続する際に、使用するユーザ名を指定します。64文字まで入力できます。

□メモ フレッツ ADSL をご利用のお客様は、「プロバイダから指定されたユーザ名＠プロバイダの識別名」と入力する必要があります。

例:プロバイダから指定されたユーザ名が「melco」で@Niftyの場合
melco@nifty.com

詳しくはご利用のプロバイダにお問い合わせ下さい。

パスワード　：プロバイダに接続する際に、使用するパスワードを入力します。(確認用) の入力欄にも、同じパスワードを入力してください。64 文字まで入力できます。

サービス名　：PPPoE サーバ (もしくはケーブルモデム) が複数台存在する場合、接続する PPPoE サーバを指定することができます。空欄にした場合は、自動検索を行い、最初に検出した PPPoE サーバに接続します。特にプロバイダからの指定がない場合は空欄にしてください。

接続方法　：PPPoE サーバに接続するタイミングを設定します。

常時接続　:本製品の起動と同時にPPPoEサーバに接続して、常時接続したままにします。設定画面のTOPページから手動で切断しても、自動的に再接続します。

オンデマンド接続:インターネットへ接続するときのみ、PPPoEサーバに接続します。

手動接続　：設定画面の TOP ページにある「接続」ボタンがクリックされたときにPPPoE サーバへの接続を開始します。

⚠注意「常時接続」を選択して、WEB サーバ等の構築を行っているときは、外部からの不正なアクセスを受ける危険がありますので、ご注意ください。

切断時間　　　：通信が行われなくなってから、自動的に切断するまでの時間を設定します。ただし、「接続方法」欄が「常時接続」に設定されている場合は、切断を行いません。また、「0」を設定することで、自動切断を行わないようにすることができます。

認証方法　　　：プロバイダとのパスワードのやり取りの方法を設定します。

自動認証　　　：認証方法を自動的に判別します（CHAP優先）
CHAP認証のみ：CHAP認証のみで認証を行ないます。
PAP認証のみ　：PAP認証のみで認証を行ないます。

メモ プロバイダから指定がない場合は、「自動認証」に設定してください。

MRU値　　　　：PPPoEで接続する際に使用する、MRU(Maximum Recive Unit)の最大値を578～1492までの整数で入力します。この設定値より、サーバのMRU値が小さければ、サーバのMRU値に合わせます。

メモ プロバイダから指定がない場合は、「1454」（出荷時設定）に設定してください。

キープアライブ：この設定を「有効」にすると、PPPoE接続中に本製品とPPPサーバ（プロバイダ）が正常に接続されているかどうか、一定間隔で確認します。サーバ（プロバイダ）からの応答が６分以上ない場合、一度プロバイダとの接続を切断します。通常、この設定は「有効」に設定してください。

頻繁にプロバイダとの接続が切断される場合、プロバイダ側のサーバが、この機能に対応していないサーバの可能性があります。この場合は、「無効」に設定してください。

MEMO